

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571500200		
法人名	株式会社 まつもと		
事業所名	グループホームこころ		
所在地	山口県周南市櫛ヶ浜西浜田517-11		
自己評価作成日	平成29年8月15日	評価結果市町受理日	平成30年1月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成29年9月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在最高齢の101歳の方を筆頭に男性3名、女性6名での生活です。職員としてではなく、共に生活する家族として日々をご一緒にしています。出来ることは見守りながら、出来ないことは手助けし、ご自分の事やお手伝いをされています。やりがいや達成感を持ち、必要とされていると感じていただけるように支援させていただいています。医療連携である高木内科クリニックの高木医師との連携で、ご家族のご希望があれば看取り対応をさせていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議に地域メンバーがたくさん参加され、行事開催時に合わせて開催することで多くの家族も参加されています。会議を地域の理解と支援を得る場としてとらえておられ、参加者が積極的に関わられるように働きかけられます。自治会の防災部長が災害時の地域の協力の必要性を話され、避難訓練時には地域の人の参加や協力が得られるなど、意見をサービス向上に活かされています。ウォーキングや犬の散歩で事業所前を通る人との交流や散歩時の挨拶、野菜やお菓子の差し入れ、事業所の精米時のぬかを配りに行くなど日常的に近所づきあいをしておられ、利用者が地域とつながりながら暮らし続けることができるように支援しておられます。利用者が楽しみや張り合いをもって暮らせるように、一人ひとりが活躍できる場面や楽しみごとの把握に努めて支援に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	サービスを提供する上で、常に意識していける理念である。また「安心・安全」という短い言葉の中には、入居者の方だけでなく、ご家族や地域の方等幅広く安心していただけるようにとの意味もある。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所と地域の関係性を重視した理念をつくり、事業所の玄関に掲示している。職員は日常業務の中で理念を意識して、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加しており、地区の清掃や消防訓練、運営推進会議や施設行事等に参加いただいて交流している。また、ご近所からお土産や、野菜の差入れがある。	自治会に加入し、回覧板が回ってくる他、年2回地域の清掃作業に職員が参加している。事業所が主催する敬老会に地域の人や介護相談員が参加し、ボランティアの来訪（日本舞踊、フラダンス）、保育園児の歌やお遊戯の披露があり、利用者と交流している。4ヶ月に1回程度ボランティアの人からハガキが届いたり、3ヶ月ごとにヘアカットの来訪がある。近所の散歩時には地域の人と挨拶を交わしている他、お土産をもらったり、野菜の差し入れがある。事業所の精米時にでる米ぬかを利用者と一緒に近所の人に届けるなど、日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の役員さんや民生委員の方との連携を行っているが、今後更なる連携を深め地域に貢献していきたい。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	運営者、管理者、職員は自己評価および外部評価の意義を理解し、評価結果を活かし向上、改善に取り組んでいる。	管理者は評価の意義を説明した後、自己評価をするための書類を配布し、職員は項目を分担して書き入れている。管理者と常勤職員が話し合い、まとめたものを職員に回覧して確認している。外部評価結果を受けて、運営推進会議で災害時の地域連携について話し合い、今年度の避難訓練には地域の人に参加して避難時の見守りの協力が得られているなど、具体的な改善に取り組んでいる。	・全職員での評価の意義の理解と活用の工夫	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況や取組について報告し、自分たちで解決できないことや問題が発生した場合は議題とし意見や提案を求めサービス向上に努めている。	会議は年6回開催し、利用者の状況、ヒヤリハット・事故報告、行事・活動報告の後、テーマを決めて意見交換を行っている。自治会の防災部長から災害時の地域の協力体制について提案があり、勉強会を行ったり、事業所の避難訓練に地域の人が参加して避難誘導や見守りに協力しているなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当課との連絡や相談、運営推進会議の参加によりサービスの現状を伝え取り組みを行っている。	市担当者とは、運営推進会議時に情報交換している他、出向いて助言を得ている他、メールで感染症(インフルエンザ、ノロウイルスなど)や台風情報の連絡があるなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報交換している他、認知症カフェの案内など電話やメールなどで情報交換して、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について理解し、安全確保ができるサービス提供に向けて職員は取り組んでいる。どのような対応が良いかを職員で検討し一人ひとりに合った支援方法を見つけるよう努めている。	職員は身体拘束について理解し、日常業務の中で一人ひとりの対応について話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はしないで、外出したい利用者とは近所のお地藏様をお参りしたり、系列事業所に出かけてお茶を飲んだり、足湯をするなど、気分転換の工夫をしている。スピーチロックについては、そのつど管理者が注意している他、職員間でも話し合いをしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について話し合い理解する機会を設け、心身の状態や、職員側の環境整備等に改善が必要な時は見過ごさず注意を払い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会を設けているが、現状は利用されている方が居られない為、職員全てが理解しているとは言えない。今後は誰であれ理解し支援できるように努めていきたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書を事前にお渡しし、不安や疑問について質問して頂けるようにし、契約時には十分な説明を行い理解、納得していただけるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や日常の面会時にお話を通して、苦情や要望等をお聞きできるようにし、運営推進会議で外部者に報告できるようにしている。また意見や要望などがあれば話し合い運営に反映するように努めている。	相談や苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。家族からの相談や意見は、面会時や電話時、運営推進会議参加時に聞いている。玄関には職員の写真と氏名を掲示し、毎月写真と一緒に利用者の近況報告の手紙を送ったり、面会時には職員が日頃の様子を伝えて、家族が意見を言いやすい雰囲気づくりをしている。介護相談員が月2回訪問して、利用者の思いなどを聞いている。ケアに関する要望にはそのつど対応している。運営に反映させるまでの意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務の中で、その時に感じた事が言えたり、食事会にて自由に発言できるようにし意見を反映させている。	代表者、統括部長、管理者は、朝の申し送り時や日常業務の中で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日報に意見や提案を書くなど、職員が意見を言いやすい工夫をしている。年3回の職員の親睦を目的とした食事会で代表者は、職員が自由に意見が言えるように心がけている。日常的な関わりの中で生まれる職員の気づきやアイディアを取り入れたり、家庭の状況等による勤務体制の変更など、意見や提案を反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の状況や職員の個々の努力や実績を把握し、向上心を持って働ける環境整備をされている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりのケアの実績や力量を把握され、事業所内での指導や提案をされている。シフトの関係上、現状は個々人の公休希望を確保する事を優先している為、外部研修の機会を確保する事ができていない。今後研修の参加が出来るように努めていきたい。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて参加の機会を提供しているが、呼びかけだけに終わっている。法人研修は、薬剤師を招いて年に3回、水虫の治療、静脈血栓塞栓症、薬の副作用をテーマに実施している。資料はいつでも閲覧できるようにしている。今年度は内部研修を実施するまでには至っていない。新人研修は、日常の業務の中で統括部長や管理者の指導の下、働きながら介護の技術や知識を学んでいる。	・職員が外部研修に参加できる工夫 ・年間計画を作成しての内部研修の実施の検討
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状公休を確保してあげることを優先している為できていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化による不安や混乱を最小限に抑え、早く生活に馴染めるよう関係作りに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みから契約時には、サービスを提供するにあたり安心していただけるように、説明や要望に対応し関係作りに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態などに合ったサービスの提供をお伝えしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者としてだけでなく、共に生活をする家族として支援を行い関係性を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係が薄れないよう配慮し、職員とご家族とで支援できるように努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出で馴染みの関係が継続できるように努めている。	家族の面会、孫や親戚の人、友人、近所の人の来訪がある他、年賀状や電話の支援をしている。歯科受診の帰りに買い物に寄ったり、家族の協力を得て、地元の敬老会への参加、法事への出席、自宅周辺のドライブ、自宅への外出、外食など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性が意欲や活動に繋がるように座席を考慮し、支えあえる環境整備に努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	命日やお盆には、お参りさせてもらったり、ホームの行事などで関係を継続させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に聞いたり、日常の会話や活動の中で把握するように心がけているが、全員を同等に把握できていない。良かった事や反省点は、記録や申し送りで共有し改善するように努めている。	入所時のアセスメントを活用している他、本人、家族からの聞き取り、日ごろの関わりのなかでの会話や利用者の言動や気づきなどを処遇記録に記録し、日報の情報と共に一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族と話し合いながら、本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人に聞いたり、ご家族やご面会の方からもお聞きした事を記録し、職員で共有できるようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、表情や会話・活動時の変化等を記録し、状態の変化や現状を全員で把握できるようにしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気づきや状態を分かりやすく記録し、定期的また状態により適宜モニタリングを行い、現状に即した介護計画になるよう努めている。	管理者、計画作成担当者が中心となってその日の勤務者で月1回カンファレンスを開催し、本人や家族の意向、主治医や看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月ごとにモニタリングを実施し、6ヶ月または年1回の見直しをしている他、利用者の状態や要望の変化に応じてその都度見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や申し送りにより注意点や検討点等を意識して実践し、結果や気づきを記録する。全員で情報を共有し、今必要な支援は何かを検討し決定し、介護計画の見直しや実践に繋げている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制やニーズに合ったサービスが提供できるように取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全に生活を楽しむことができるように支援しているが十分とは言えない。心身の状態に応じて地域資源との協働を増やしていきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	見学时や契約時に希望をお聞きし優先している。また、ホームの医療連携である主治医との連携で24時間適切な医療が受けられるよう体制を整え支援している。	本人、家族の希望するかかりつけ医としており、現在全員が事業所の協力医療機関をかかりつけ医としている。事業所が受診支援をしており、職員が口頭で情報を伝えている。結果は電話や面会時、毎月の手紙で家族に報告している。他科受診は家族の協力を得ているが、近所の歯科医院には事業所が受診支援することもある。緊急時や夜間は代表者や統括部長、管理者に連絡し、指示を受けて協力医療機関に連絡し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態を記録し看護師に報告や相談を行う。対応や受診の必要性等の指示を受け医療や看護が適切に受けられるように支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に退院できるように主治医との情報交換や相談を行う。また入院による環境の変化で起こる混乱等を最小限に抑えるため細目に面会をし不穏にならないようにしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族のご意向を尊重し主治医との連携で、ホームでできる事やリスクについて十分に話し合い説明し、方向性を統一し取り組んでいる。職員には看取りに対して負担にならないように説明や勉強会を行い体制を整えている。	重度化や終末期に事業所でできる対応について、契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族の意向を聞き、主治医や看護師と医療機関への移設や看取りについて話し合い、方針を決めて共有して支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	常にホーム内の状態を把握するように心がけ、服薬については準備から与薬までを2名体制で行い誤薬を防ぐようにしている。緊急時の対応も迅速に適切な対応ができるように勉強会や訓練をし実践力を身に着けるようにしている。	事故が発生した場合はその場の職員間で事故原因、対応策を話し合い、ヒヤリハット・事故報告書に記録して全職員で共有している。対応策は再度検討して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事故発生時に備えては、熱中症やインフルエンザ、ノロウイルスなどの対応は日常業務の中で話し合い、訓練しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練をし、災害発生時の連絡方法や避難場所等の確認、地域への協力体制を築いている。	年1回は消防署の協力を得て夜間想定で、もう一回は法人合同で夜間設定の消火・通報・避難訓練を利用者と一緒に実施している。自治会防災部長や民生委員の参加を得て避難誘導、見守り等の訓練をしている他、避難場所の協力も得ている。緊急時自動通報装置に自治会長の加入があり、通報があれば、地域住民の協力が得られるように地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	意識し心がけて対応するようにしているが、出来ていない時はお互いに意見し、人格の尊重やプライバシーの確保ができるよう向上に努めている。	日常業務の中で人格の尊重とプライバシーの確保について話し合い、職員は理解して、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応や言葉づかいに対しては管理者が注意している他、職員間でも話し合っている。個人情報管理には気をつけると共に、守秘義務についても理解して遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を発することのできる環境づくりや声かけをするように努めている。また、自己決定が困難な方へは、様子見や対応の中から思いを理解するように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを把握し優先するよう心掛けて いるが、職員の都合で動いてしまうこともあり 常に希望に沿った支援ができていない。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	整髪や日々の服装等、可能な方は自分で 行ってもらえるように支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、下膳、片付け等を一人ひとりの 力量や状態に応じて行っている。また、入 居者と職員は同じものを一緒に食事してい る。	利用者の好みと栄養面を配慮した献立を作 成し、買い物に行ったり、地域の人からの野 菜の差入れを使って、三食とも事業所で食事 づくりをしている。利用者の体調や嚥下状態 に合わせて形状を工夫している。利用者は米 とぎ、テーブル拭き、コップ拭き、お盆拭き、 下ごしらえ、下膳などを職員と一緒にしてい る。利用者と職員は同じテーブルで同じ食事 を食べながら会話を楽しんでいる。季節の行 事食(おせち、節分、ひな祭り、敬老会など) を楽しんだり、おやつづくりをしている他、家 族の協力を得ての外出など、食事を楽しむこ とのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	体調や活動量、医師からの指示等に応じ て、食事量や水分量を調整し体調管理して いる。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後の口腔ケア、夜間の義歯洗浄を行っ ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄リズムを把握し、できるだけトイレで排泄できるように対応している。記録を活用したり、サインや動きを見逃さないようにしている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々に合わせた声かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	最終排便を日報に記録し、全員が把握できるようにしている。食物繊維を多く含む食品を使用したり運動を取り入れるようにしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間が午前中である為職員の都合になっている。本人の希望に合わせて順番は配慮している。	毎日10時から11時30分までの間可能で、一人ひとりの希望に合わせてゆっくりと入浴できるように支援している。体調に合わせて清拭や足浴、シャワー浴の対応をしている他、入浴剤などを使って気分転換の工夫もしている。入浴したくない人には曜日や時間の変更、声かけの工夫をしているなど、一人ひとりに応じた入浴支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望に応じて休息、快適な安眠ができるよう室温調整に気を付けている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の種類、注意事項は毎回記録表に明記し理解するようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力に応じ役割を持つことで、活躍の場を設けたり、生活歴やできる事、好きな事、本人の意思を尊重し支援している。	テレビ視聴(野球、相撲、地元のニュース)、ラジオ(野球中継)、雑誌、習字、オセロ、トランプ、輪投げ、風船バレー、うちわバージョン、黒髭ゲーム、折り紙、塗り絵、貼り絵、ちぎり絵、童謡、カラオケ、口腔体操、周南体操、縫い物、敬老会や季節の行事、ボランティアの来訪(日本舞踊、フラダンス)、保育園児との交流などの楽しみごとや、洗濯干し、洗濯物たたみ、お米研ぎ、お盆拭き、コップ拭き、テーブル拭き、下膳、おしぼり巻き、草ひき、野菜の植え替えなどの他、編み物が好きで仲の良い利用者にマフラーを編みたいという利用者の思いに添って、家族に毛糸を持参してもらうなど、利用者のできることやしたいこと、思いを把握して、楽しみごとや活躍できる場面づくりの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	状態に応じてご家族を交え外出していただいている。その日の希望に沿った外出、散歩は職員体制にもよる為、職員の都合で決めてしまうことが多くなっている。	周辺の散歩や買い物、精米時のぬかを近所に配る、系列事業所に出かけてお茶を飲んだり、足湯を利用している他、家族の協力を得て地元の敬老会への参加、自宅周辺のドライブ、法事への参加、墓参り、一時帰宅、外食など戸外に出られるように支援している。	・日常的な外出支援の工夫
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の管理が困難になってきている為、少額所持されている方も居られるが、殆どの方が所持されていない。買い物時はレジで支払いを見守りながら行えるようにしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から電話をすることはないが、ご家族から電話があれば、お話しできるように支援している。季節の手紙を書きいただき、ご家族に出している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には季節ごとの作品を掲示し、室温調整や空間づくりに努めている。	リビングの天井は高く、ウッドデッキからは陽ざしが降り注いで明るい。壁には施設名の入った大漁旗、タペストリー、絵画、折り紙作品、大きな日めくり、保育園児の作品や写真、ぬいぐるみが飾ってある。中央には木目を活かした大きな木製の食卓を配置し、利用者が職員と食事をしたり、ゆったりとくつろげる団らんの場所となっている。台所は対面式になっていて調理の音や匂いがして生活感を感じることができる。テレビの前には大きなソファを置いて、ゆっくりとくつろげる場所となっている。温度や湿度、換気などに配慮して居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の位置や活動時は、気の合う仲間での時間が過ごせるよう配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使用していた家具や寝具を持参していただき、ご本人が安心して生活ができるよう環境作りをしている。	ベッドや布団、タンス、衣装ケース、テレビ、カラーボックス、机、鏡台、時計、裁縫セット、編み物用具、花鉢など使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族の写真やカレンダー、ぬり絵の作品などを飾って居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分の居室が分かるように目印を付けたリ、安全に歩行できるよう支援している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム こころ

作成日：平成 29 年 12 月 30 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	転倒、誤薬等日頃から注意しているが「ひやり、はっと事故報告」がある。職員は気を付けているが他の事に集中してしまったり、他の事にも手を付けてしまい事故に繋がってしまう。	事故防止の取り組みとして「転倒0・誤薬0」を目指す。緊急時には職員誰もが迅速に初期対応、応急手当ができるようにする。	事故が起きないように、対象者を常に把握できる状態で関わるように整備する。ながら業務をせず、集中して行う。状態の変化には、常に職員間で情報を共有し検討する。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。